



園芸作物栽培についての

これからの対策と Q&A

◎秋野菜の管理

本年は台風が目立っており、暖かな湿った空気の流れ込みにより、短期間で集中した雨が降る傾向が強くなっています。こうしたことから圃場の排水対策はしっかりと行っておいてください。また、野菜同士が込み入った場合は、間引きや

◎害虫の防除

近年、害虫の発生が増加しており発生初期の防除が重要となっています。害虫は一回多発生してしまうと農薬散布によって根絶することは困難となります。防除の原則は早期発見・早期防除です。秋野菜の主要害虫はアオムシ・ヨトウムシなど蛾の幼虫で、さらに今年はシンクイムシの発生が多くなることも懸念されます。これら害虫にはプレバソフロアブルやフェニックス顆粒水和剤が良く効きます。また、アブラムシの発生も目立ってきています。アブラムシは多発生すると葉の隙間に群生し、水もはじくので農薬が付着しにくくなり、防除効果が上がらなくなりますので早期防除が必要です。また、黄化した下葉はナメクジや病原菌の巣になりやすいため取り去ってください。

気温が高く推移していると害虫の発生回数も多くなるとともに、ネキリムシなどの土壌害虫の活動も活発となります。秋野菜の定植



アブラムシ



シンクイムシ

時の同時処理剤などの効果もそろそろ切れる頃となっていますので、今後は葉裏を中心によく観察し、早期防除につとめてください。フロッコリーやキャベツ等の水をはじく野菜への農薬散布には展着剤を混ぜると効果的です。

◎追肥

秋野菜の追肥は気温が下がる時期ですので早めの施用が原則です。追肥のタイミングはキャベツ、ハクサイなどは結球始め、フロッコリー、カリフラワーでは出蕾始め、大根では本葉6〜7枚目位で2回目の間引きと併せて行います。追肥は3号など化成肥料を使用する場合概ね1株当たり4〜5g程度(指4本でつまむ程度)を目安とします。一度に追肥を多く施用しますと逆に根を痛めたり、病害虫に侵されやすくなりますので注意してください。

◎雑草処理

秋野菜の管理で、雑草処理も負担となります。手取りで処理しきれない場合は茎葉処理の除草剤を使用することになります。除草剤の中にはバスタやプリグロックス等の畦間処理可能なものもあります。茎葉処理剤には根まで枯らすもの(ラウンドアップ等)や薬液のかかった部分だけ枯らすもの(バスタやプリグロックス等)まで作用は色々ですので特徴を生かした使い方をしましょう。

◎農薬散布

農薬の効果は使い方によって大きな差が出ますので以下の点に注意してください。



- ①薬を直接タンクに入れて水を注入し希釈する方がおられますが、農薬の希釈は、タンクに水を半分くらい入れてからあらかじめ少量の水で溶かした薬液を入れます。特に水和剤などは必ず水で溶いてから使用しましょう。
- ②散布には加圧式の噴霧器を使用します。中にはジョウロに入れて作物にかけておられる方がいますが、噴霧器を使用した方が効果的です。
- ③病害虫は混み入ったところや葉裏に取り付きますので、そうしたところに薬液が充分かかるように丁寧に散布してください。
- ④農薬を散布したからといって病害虫が完全になくなることはありません。特に害虫は卵から順次孵化してくるので、10日おきに繰り返し散布が必要となります。

◎越冬野菜の播種・定植

- ①10月は越冬野菜の準備が始まります。作業としてはイチゴの定植(10月上旬)・・・ラウンド部分(茎部)が1cm程度のしっかりとした苗を植える。
- ②越冬キャベツの播種(品種によって10〜15日基準)・・・金系2001、SE、北ひかり、秋時極早生2号など。
- ③ニンニクの定植(上旬〜中旬)・・・リン片は8〜10g程度のものを使用、2〜3年毎に計画的に種子を買入れ更新する。
- ④一寸ソラマメの播種(中旬)・・・タネの一部が見えるように播種する。(窒素による発芽不良回避)ただし、カラスなどに取られないよう注意。
- ⑤タマネギ苗の管理(月間)・・・育苗中に1回は追肥を行います。目安として本葉2〜2.5葉時に1㎡当たり化成肥料で30〜40gを撒いて軽く土壌と混和します。また、育苗中にべと病などの予防にダコニール1000などを展着剤を加用して散布しておきます。育苗期間中は雨よけ等をして雨にたたかれないようにすることを推奨します。

◎イモ類の収穫

サツマイモの紅アズマは植え付けから1〜10日すぎ、金時系は1〜20日すぎから掘り取りに入ります。10月中の貯蔵は湿度、温度ともできるだけ

低い所で保存します。いずれも高いイモから芽が動き始めます。サトイモは10月に入り、立っている葉が2枚程度となってきたら収穫が始まります。掘り上げた株は風通しの良い場所で乾燥させましょう。保存する分は株母が大割状態とし傷口はできるだけ小さくしましょう。

◎園芸巡回現地より

8月下旬に定植されたキャベツやフロッコリーの生育が良くない圃場を少なからず見受けました。これらはすべて水やりなどの定植後の初期管理不良によるものが大きいと思われると思います。本年は水田転換圃場の水分が高く推移し圃場耕起が比較的難しい年となりました。高水分圃場の耕起で土塊が大きなゴロ土状態となるとプラグ苗との密着が悪くなるため、初期に乾燥し根の機能が失われてしまい初期生育が不良になります。一方、本年は一気の良い雨が多いため畝の低い圃場や排水が効かない圃場では、プラグ苗の根が窒息して機能低下を起して生育不良となっています。プラグ苗は培土量が少ないため特に初期管理は丁寧にを行う必要があります。

◎秋野菜に登録のある殺虫剤

農薬名	対象害虫				使用倍率	対象作物			
	アオムシ	コナガ	ヨトウムシ	アブラムシ		その他	大根	白菜	キャベツ
ジェイエース水溶剤	○	○	○	○	1000~1500	○14	○14	○7	○14
モスピラン水溶剤(劇)	○	○		○	1000~4000	○14	○14	○7	○14
アフーム乳剤	○	○	○		1000~2000	○7	○7	○7	○7
コテツフロアブル(劇)	○	○	○		2000	○14	○前	○前	○前
カスケード乳剤	○	○	○		4000	○14	○7	○7	○7
ハクサップ水和剤	○	○	○	○	1000~2000	○35	○前	○前	○前
エルサン乳剤	○	○	○	○	1000~2000	○30	○21	○14	○21
プレバソフロアブル	○	○	○		2000	○前	○前	○前	○前
フェニックス顆粒水和剤	○	○	○		2000~4000	○7	○前	○前	○前
スタークル顆粒水溶剤	○	○		○	2000~3000	○7	○3	○3	○3
ダントツ水溶剤	○	○		○	2000~4000	○7	○3	○3	○3
アディオン乳剤	○	○	○	○	2000	○30	○14	○3	○3

(注)上記表は早見表として作成したもので、使用にあたっては対象作物、使用倍率、散布回数などは確認し使用してください。対象作物欄の数字は収穫前日数を表す。〔○14〕は収穫前14日まで。〔○前〕は収穫前日まで(24時間前まで)

お問合せ先



東部ふれあいセンター内
営農生活課 担当:高橋
TEL.0778-51-8004

バックナンバーはJAたんなんホームページ
http://ja.tannan.com/広報誌をご覧ください。